

平成 27 年 11 月 20 日

VIAX 児童部会

#### 第 4 回「基本図書から学ぶ」報告書

1. 日時 平成 27 年 11 月 20 日（金）14：00～17：00

2. 場所 ヴィアックス研修センター（鳩山ビル 6F）

3. 参加者 21 名

4. 配布資料

①児童部会「基本図書から学ぶ④ ノンフィクション絵本について①」

②児童部会「基本図書から学ぶ④ ノンフィクション絵本について①グループワークシート」

5. 内容

(1) 事務局より、資料①と参考図書『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳  
新潮社 1996（旧版 佑学社 1991）に基づきノンフィクションとは何かについて解説があった。

(2) 6 グループに分かれ、各班で担当したノンフィクション絵本について読み深めて内容を検討し、資料②のグループワークシートに記入した。各班が担当した絵本は以下の通りである。

A 班…写真絵本

『ふゆめがっしょうだん』長新太著 富成忠夫・茂木透写真 福音館書店 1990

『ひとしずくの水』ウォルター・ウィック著 林田康一訳 あすなろ書房 1998

B 班…身近なものから本質にせまる絵本、広げていく絵本

『じめんのうえとじめんのした』アーマ・E・ウェバー著 藤枝滯子訳 福音館書店 1983

『シロナガスクジラより大きいものっているの？』R・E・ウェルズ著 せなあいこ訳 評論社 1999

C・D 班…宇宙、命のつながりを知ることができる絵本

『いのちのつながり』中村運著 佐藤直行絵 福音館書店 1991

『せいめいのれきし 改訂版』バージニア・リー・バートン著 石井桃子訳 真鍋真監修 岩波書店  
2015

E 班…世界のつながりを知ることができる絵本

『いっぽんの鉛筆のむこうに』谷川俊太郎著 堀内誠一絵 坂井信彦写真 福音館書店 1989

『せかいのひとびと』ピーター・スピアー著 松川真弓訳 評論社 1982

F 班…自分の手で確かめられる絵本

『よわいかみつよいかたち』かこさとし著 童心社 1988 (新版)

『まほうのわ』折井英治・折井雅子著 藤嶋かおる絵 大日本図書 1987

(3) 各グループで話し合った内容の発表を行った。以下、発表内容のまとめである。

A 班

『ふゆめがっしょうだん』について

- ・ 木の芽を合奏団員の肖像画のように配置し、身近な木の芽を顔に見立てて遊ぶ楽しさを伝えている
- ・ 子どもの興味を惹く鮮明な写真である
- ・ 写真に合った歌うような文章で、擬音語がくりかえされている
- ・ 木の芽にはいろいろな種類があり、一つとして同じ種類がないことがわかる
- ・ 最後に解説と木の名前があり、わかりやすい

『ひとしずくの水』について

- ・ 身近な水が様々な姿になって循環していく様子を、変化がわかる時系列の連続写真でわかりやすく伝えている
- ・ 子どもの興味を惹くような美しい写真が効果的に使われている
- ・ 表面張力、屈折など語句や説明は難しいが、写真に助けられている
- ・ 背景が白く、余白部分を多くとることで写真を効果的に際立たせている

B 班

『じめんのうえとじめんのした』について

- ・ 地面の上と下の様子を比べながら、動物と植物が大きく関わりあっていることが描かれている
- ・ やさしい言葉で説明されている。上の説明は上部に、下の説明は下部に配置されていたり、地面はオレンジで、葉っぱは緑に色分けされていたりと対比が効果的で、わかりやすい構図になっている
- ・ 人参、じゃがいもなど身近な野菜が出てきて興味をひきやすい
- ・ 判型が小さく、小さい子でも手にとって読むことができる

『シロナガスクジラより大きいものっているの?』について

- ・ 知っているもの（シロナガスクジラ）や身近なもの（オレンジ）などを使って対比させることで、日常では見ることの出来ないもの（宇宙）を想像できるようになっている
- ・ クジラ→エベレスト→地球→星→宇宙と広げていくことができる
- ・ 絵が親しみやすく、気張らないで読むことができる。またイメージを広げる手助けをしてくれる
- ・ 横長、縦長に見開きいっぱい描かれているページは、スケールの大きさが伝わってくる
- ・ 扉の言葉は興味をひきたたせる

## C・D班

### 『いのちのつながり』について

- ・ 地球上の生き物の進化の過程を、絵でわかりやすく描いている
- ・ 進化という子どもには難しい題材だが、身近な動物、植物が出てくるので興味をもってもらえる
- ・ 文章はひらがなの説明でやさしいが、内容は難しいところがある
- ・ 宇宙人のようなキャラクターが解説してくれて親しみやすい
- ・ 時代順に進化していく表紙絵が見事

### 『せいめいのれきし』について

- ・ 太陽の誕生から今この瞬間までの命のつながりが絵物語のように描かれている
- ・ 舞台になっていて、まるで一つの劇をみたような気持ちになれる
- ・ 絵が細かいところまで丁寧に書かれており、最後まで読んでもまた戻って眺めたくなる魅力がある
- ・ 文章は簡潔だが、絵と一緒にみることによって想像を広げることができる
- ・ 表紙・裏表紙の黄色は目をひき、太陽につながっていくように感じる
- ・ 初版は1964年で、改訂版が2015年に出版されている。時代が変わり情報が更新されることがあれば、正しい知識を提供するために改訂していく必要がある

## E班

### 『いっぽんの鉛筆のむこうに』について

- ・ 鉛筆の生産過程を、黒鉛を掘るところから順を追って記すことで、日常的に使用するものにも遠い世界の国や人々が関わっているのだと知ることができる
- ・ 外国でも人が暮らしていて、生活を楽しみ働いていることを知ることができる
- ・ 写真と文がうまく補い合っていて、黒鉛をほる様子や鉛筆が作られていく様子がよくわかる
- ・ 具体的な数字があることでわかりやすくなっている
- ・ 表紙と表紙裏で1本の鉛筆になる表現がなされている

### 『せかいのひとびと』について

- ・ 世界の人たちの様子を絵で細かく描いていて、日常では関わることのない世界中の文化や感性に触れることができる
- ・ 大部分は絵なので、抵抗なく異なる文化の様子に親しむことができる
- ・ 自分たちの住む地域、国以外でも、様々な文化や風習をもった人々が世界中で暮らしているという事実を目を向けることができ、一人ひとり違っていることがすてきと感じさせてくれる

## F班

### 『よわいかみつよいかたち』

- ・ 身近なものを使い、誰にでもできる易しい実験を描いている
- ・ 10円玉を何個のせることができるなど、数字が具体的なので本当かどうかためしてみたいくなる
- ・ 紙面は余白が多く実験対象がよく目立つので主題に集中できる

- ・ 子どもと同じ目線で描かれているので興味を自然と引き出す

#### 『まほうのわ』について

- ・ 輪っかに関する誰でもできる実験について、疑問→答えという形式で書かれている
- ・ 実験からなぜそうなるのか自分で考えられるようになっている。すべて教えてしまわないことで、子どもの探求心を刺激する効果もあるのではないか
- ・ 実験の様子が絵で丁寧に描かれていてイメージしやすい。また実験の過程が順番にわかりやすく書かれていて、実演できるようになっている
- ・ 文章は子どもに問いかける話し言葉になっていて、実験にとっつきやすくなっている

#### (4) 所感

- ・ これまでの部会を通して、子どもにとって本から得る知識や経験がいかに重要かを知った。子どもの好奇心を刺激し、そして知識や経験を豊かにしていくために、良質な知識絵本を見極める目をこれから養っていかれたらと思う
- ・ 物語絵本は、何十年も読み継がれてきたロングセラー本は一定の安心感があり自信をもっておすすめできるが、知識絵本を使用する際は、書かれている情報が本当に正しく、かつ最新のものをよく吟味する必要があると感じた